

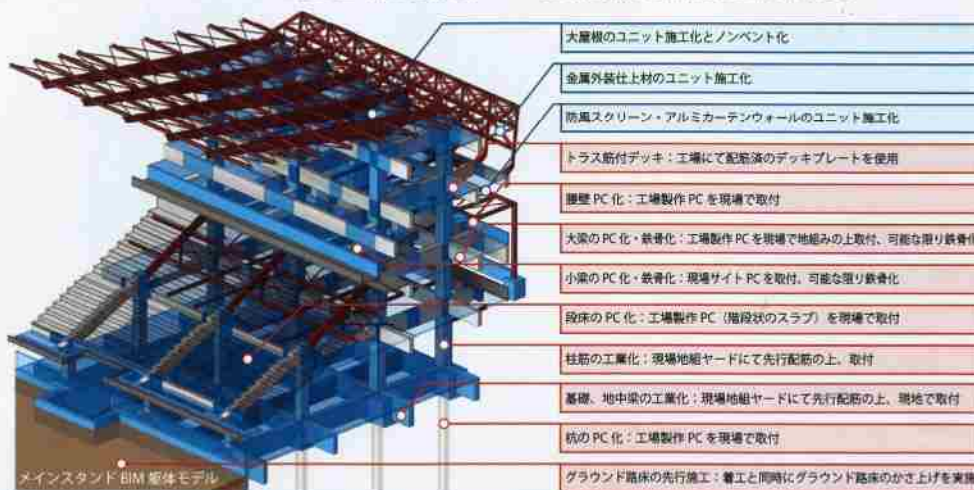
施工計画

■施工コンセプト

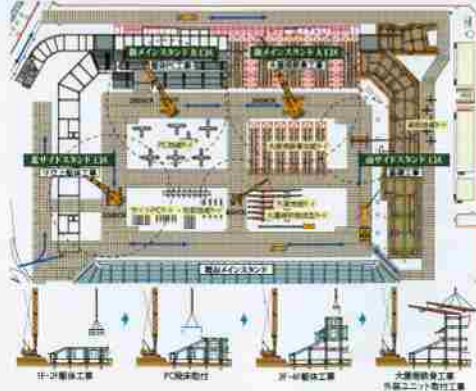
2019年ラグビーワールドカップ会場整備の施工計画を立案するに当たり、まず検討を行ったのが天然芝の施工でした。天然芝の施工は、圃場にて厳格に管理されている芝をピックロールの状態に現場に運搬して敷込を行うため、根付の良さを考慮するとその施工時期は4月が最も適しています。2018年4月に芝の施工を開始するためには、躯体・外装仕上の工期を約3.0ヶ月短縮する必要があります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック建設ラッシュに伴う労務・資材不足の懸念もありました。これらの問題を解決するために、あらゆる工期短縮案を提案し、設計技術協力業務（ECI）期間中に設計仕様に取り入れられました。（下図 赤色：躯体工事、青色：仕上工事）提案の主な目的は、工場生産・ユニット施工を採用することで現地での施工時間を最小限にすることですが、これらの提案は、単に工期短縮だけではなく品質・安全の向上にもつながります。当作業所では、2018年8月の完成に向けて『One For All All For One! 助け合いの心を大切に 匠の技を集結し 世界に広げよう 最高のスタジアム』をスローガンに掲げ、発注者・設計者・協力業者一丸となって取組んでいます。

※1: 作物を栽培する田畑・圃場
※2: 芝生をロール状に巻取ったもの

※3: 「アーリー・コントラクター・インボルブメント」の略。設計段階から施工者が参画し、施工の実施を前提として設計に対する技術協力を行うこと。



■総合仮設計画図



■総合工程表

作業内容	2017年												2018年											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全体工事	基礎工事・躯体工事・大屋根外装工事												クワン工事・外装工事											
メインスタンド	躯体工事 大屋根ユニット 防風スクリーンユニット・外装ユニット												内装工事 外装工事											
右サイドスタンド 左サイドスタンド	基礎躯体工事 躯体工事												内装工事 外装工事											
付帯工事	屋根付階段工事 スロープ・大階段工事												大屋根躯体工事 クワン工事											
クワン工事	クワン工事												クワン工事											
備考	図説書、図説書																							

熊谷ラグビー場 新スタンドほか建設工事



発注者

埼玉県

設計・監理

株式会社 松田平田設計

設計技術協力・施工

清水建設 株式会社

計画概要

■敷地概要

建物場所 埼玉県熊谷市上川上 810 番地
 敷地面積 275,243.96 m²
 用途地域 指定なし
 防火地域 指定なし
 その他規定 なし

■建築概要

建築面積 9,443.50 m²
 延床面積 17,071.91 m²
 容積率 10.61%
 構造・規模 RC造,S造 地下0階 地上4階
 用途 観覧場

整備スケジュール



施設計画



改修の概要

施設概要及び改修コンセプト

1 施設概要

- 規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造4階建て
延床面積 約28,000㎡
(新スタンド 約17,000㎡、既存スタンド 約11,000㎡)
- 席数 約24,000席(VIP席176席、ビューボックス席80席)
- 主要室 貴賓室、VIP室、ビューボックス、VIPラウンジ など
- 主設備 夜間競技用照明設備 平均2,000lux以上
大型映像装置 170㎡×1基

※ワールドカップ開催時 仮設席 6,000席、大型映像装置 仮設 1基



2 改修コンセプト

- ① 臨場感あふれるスタジアム
- ② 大会運営に配慮した動線計画
- ③ ナショナルトレーニングセンターに必要な施設計画



[南サイドスタンドから新メインスタンド及び北サイドスタンド方面を臨む]

【参考】 改修前

- 規模 鉄筋コンクリート造3階建て 延床面積 約11,000㎡
- 収容 約24,000人
(メインスタンドベンチ席6,516席、バックスタンドベンチ席2,760席、立見席・芝生席14,724人)
- 主要室 選手更衣室、会議室、貴賓室、レセプションルーム など
- 主設備 磁気反転式得点等表示装置
※夜間競技用照明設備及び大型映像装置は無い

